

令和 5 年 4 月 14 日

(※受付番号 )

教 育 長 様

代表者	校 園 名 :	大阪市立茨田南小学校
	校 園 長 名 :	宇野 多加志
	電 話 :	6 9 1 1 - 2 0 0 1
	事 務 職 員 名 :	奥田 明香里
申請者	校 園 名 :	大阪市立茨田南小学校
	職 名 ・ 名 前 :	校長 宇野 多加志
	電 話 :	6 9 1 1 - 2 0 0 1

研究コース
S 研究テーマ指定 (A)
校園コード (代表者校園の市費コード)
701571

### 令和5年度 「がんばる先生支援」研究支援 申請書

◇本研究の支援を受けたく、次のとおり申請します。

1	研究コース	コース名	S 研究テーマ指定 (A)	研究年数	継続研究 (2年目)
2	研究テーマ	ICTを活用した「主体的・対話的で深い学び」の追求			
3	研究目的	<p>テーマに合致した目的を項立てして記載してください。</p> <p>本研究を行うにあたって次のことを目的とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ <b>主体的な学びの充実</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が「学びたい」と意欲をもって取り組むことができる学習単元・学習活動・教材の開発。</li> </ul> </li> <li>○ <b>対話的な学びの充実</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対話的な学びのための子ども同士の協働、教職員・地域の方々等との対話を通じ、自己の考えを広げ深めるようにする。</li> </ul> </li> <li>○ <b>深い学びの充実</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「見方・考え方」を働かせて知識を相互に関係づけてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり問題を見出して解決策を考えたりすることができるようにする。</li> </ul> </li> <li>○ <b>1人1台端末時代の学びの在り方をさぐる。</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「個別最適化」と「協働的な学び」の在り方について研究を深める。</li> </ul> </li> </ul>			
4	研究内容	<p>(1)研究内容の詳細 ※継続研究2年目以降は1年目の記載をコピーして貼付する</p> <p>本校は、一昨年度まで「ICTを効果的に活用した『主体的・対話的で深い学び』の追求」を研究テーマに3年間「がんばる先生支援」の研究指定校に選定され、大阪市教育センターの支援を受けて研究を進めてきた。その中で、次のような成果をあげることができた。</p> <p>① ICTを積極的に活用することで児童の学習意欲が高まった。</p> <p>② 全校で共通理解して学習ルールがさらに徹底できたので、学校全体として児童の学びに向かう姿勢づくりができた。</p> <p>③ ICTを活用することで児童の情報処理能力が高まるとともに授業の質も高まってきた。 ④ 教員のICT活用能力が高まったことや、全教科に研究の幅を広げたことで教職の指導力も高まってきた。</p> <p>(2)継続研究〔2年目〕 ※継続研究3年目の場合は、2年目の記載をコピーして貼付する</p> <p>コロナ禍が続き、教育活動に様々な制限がかかる中、本校は、「ICTを効果的に活用した『主体的・対話的で深い学び』の追求」を研究テーマに3年間「がんばる先生支援」の研究指定校に選定され、大阪市教育センターの支援を受けて研究を進めてきた。その中で、次のような成果をあげることができた。</p> <p>① ICTを積極的に活用することで児童の学習意欲が高まった。</p> <p>② 全校で共通理解して学習ルールがさらに徹底できたので、学校全体として児童の学びに向かう姿勢づくりができた。</p> <p>③ ICTを活用することで児童の情報処理能力が高まるとともに授業の質も高まってきた。 ④ 教員のICT活用能力が高まったことや、全教科に研究の幅を広げたことで教職の指導力も高まってきた。</p> <p>課題としては、次の点があげられる。</p> <p>① 学年別情報活用能力表による目標に届かない児童も見られ、まだ十分学年に応じた能力をつけたとはいえない。個々に支援をしていかなければならない。</p> <p>② 1人1台端末体制の可能性を探り、授業づくりの在り方を研究していく。</p> <p>そこで、今年度においては、昨年度の成果と課題を踏まえ、次の研究を行う。</p> <p>① これまでの研究内容を基にして、多様な教科・領域において「ICTを活用した『主体的・対話的で深い学び』の追求」を研究テーマに定め、更なる実践的研究に取り組む。</p> <p>② 「主体的・対話的で深い学び」を支える発問について研究・実践に取り組む。</p> <p>③ 「主体的・対話的で深い学び」を支える学習プロセスについて研究・実践に取り組む。</p> <p>具体的には、「話題の提示⇒解決の見通し⇒協働解決⇒全体解決⇒まとめ⇒振り返り」といった問題解決的な学習プロセスに取り組む。</p> <p>④ 1人1台端末体制のもと、「個別最適化」と「協働学習」を実現する授業づくりの工夫について研究・実践に取り組む。</p> <p>⑤ 学習モデルの活用：「話型・文型・思考ツール」を活用して児童の学びを深めていく。</p> <p>(3)継続研究〔3年目〕</p>			

5	活動計画	<p>日程や内容など、研究の過程がわかるように詳細に記載してください。</p> <p>4月 昨年度までの課題や先行研究を確認した後、研究体制の確立、研究内容・年間計画の作成を行う。見込まれる成果等の検討、研究計画の立案</p> <p>6月 教員・児童への事前アンケート作成・実施・分析</p> <p>7月 研修（公開授業に向けた授業者、指導案の検討など）</p> <p>8月 校内ICT研修会の実施、研究大会参加（参加後、内容の周知及び研究内容に活用）</p> <p>9月 研究の中間見直し（研究成果・課題について協議し改善方法を検討）</p> <p>10月 教材研修（授業の視点を確認、教材研究）</p> <p>1月 研究発表会（参加者アンケート）、研究紀要の作成</p> <p>2月 教員・児童への事後アンケート実施・事前アンケートとの比較・分析・結果の考察</p> <p>3月 本年度の成果と課題、次年度への展望</p> <p>出張を伴う研究会への参加、外部講師を招聘する研修会の実施等、経費執行が必要な取組を記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・全国〇〇科研究大会 千葉大会参加</li><li>・ICTを活用した〇〇教育の実践者研修会参加</li><li>・授業研究会の指導助言 講師：〇〇大学 〇〇〇〇教授 年4回実施</li></ul>
6	見込まれる成果とその検証方法	<p>(1)継続研究（2年目、3年目）において検証方法の変更の有無を記入してください。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 変更しない。 <input type="checkbox"/> 変更する。 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">理由</span></p> <p>(2)大阪市教育振興基本計画に示されている、「<u>子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上</u>」および、「<u>教員の資質や指導力の向上</u>」について見込まれる成果を端的に記載し、その成果について客観的な指標により、必ず数値で示すことができる検証方法を記載してください。（いずれかに<input checked="" type="checkbox"/>を入れてください）</p> <p><b>【見込まれる成果1】</b></p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上</p> <p><input type="checkbox"/> 教員の資質や指導力の向上</p> <p>ICTを活用することで児童の学習意欲が高まる。</p> <p>《検証方法》</p> <p>学校生活アンケート（児童）で「あなたはタブレットやデジタル教科書を使った学習は楽しいですか」の項目の肯定的回答の割合を85%以上にする。</p> <p><b>【見込まれる成果2】</b></p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上</p> <p><input type="checkbox"/> 教員の資質や指導力の向上</p> <p>ICTを活用することで授業の質が高まり、「わかりやすい」授業を行うことができ、児童の学力が向上する。</p> <p>《検証方法》</p> <p>学校生活アンケート（児童）の「あなたは、授業がよくわかりますか。」の肯定的回答の割合を80%以上にする。</p>

6	見込まれる成果とその検証方法	<p><b>【見込まれる成果3】</b>  <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上  <input type="checkbox"/> 教員の資質や指導力の向上                  児童の情報活用能力が高まることで児童の自己肯定感が高まる。</p> <p>《検証方法》                  学校生活アンケート（児童）「自分には、よいところがある。」の肯定的回答の割合を75%以上にする。</p> <hr/> <p><b>【見込まれる成果4】</b>  <input type="checkbox"/> 子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上  <input checked="" type="checkbox"/> 教員の資質や指導力の向上                  校内研究が活性化し、教職員の授業力が向上する。</p> <p>《検証方法》                  教員アンケート「学習に対する児童の興味・関心を高めるためにコンピューター等を使って効果的に教材を提示することができる」に肯定的回答をする教員を80%以上にする。</p>						
7	研究成果の共有方法	<p>◆研究発表【必須】 <b>報告書提出日（令和6年2月22日）までに必ず行ってください。</b></p> <p>○研究発表の日程・場所（予定）</p> <table border="1" data-bbox="411 920 1455 981"> <tr> <td>日程</td> <td>令和 6 年 2 月 2 日</td> <td>場所</td> <td>茨田南小学校</td> </tr> </table> <p>◆waku<sup>x2</sup>.com-<u>bee</u>掲載による共有【必須】</p> <p>○掲載の日程（予定）</p> <table border="1" data-bbox="411 1059 962 1120"> <tr> <td>日程</td> <td>令和 6 年 2 月 22 日</td> </tr> </table> <p>◆他の共有方法を計画している場合は記載してください。</p> <p>研究紀要の作成を通して、全市に研究成果を発信する。</p>	日程	令和 6 年 2 月 2 日	場所	茨田南小学校	日程	令和 6 年 2 月 22 日
日程	令和 6 年 2 月 2 日	場所	茨田南小学校					
日程	令和 6 年 2 月 22 日							
8	代表校園長のコメント	<p>1. 新規研究（1年目） ※継続研究2年目以降は1年目の記載をコピーして貼付する</p> <p>茨田南小学校においては、これまで3年間、「ICTを活用した『主体的・対話的で深い学び』の追求」をテーマに「がんばる先生支援」に選定され、研究活動に取り組んできた。</p> <p>この3年間はコロナ禍の真っ只中であり、予測不能な事態への対応並びに1人1台体制・教育情報システムの導入など新しいシステムへの対応に迫られる中であり、変化に対応する学校づくりが求められるものであった。その中において、本校の研究こそ「ピンチをチャンスにできる取り組み」ととらえ、本研究実践に教職員一同真摯に取り組んできた。その成果と課題について公開授業や学校HP・研究紀要等で広く公開してきたところであり、これらの取り組みを進める中で、児童の学力・教職員の授業力も着実に向上してきている。</p> <p>本年度は、これまでの研究成果をさらに発展させ、1人1台端末体制のもと、「個別最適な学び」と「協動的な学び」の一体化を図りながら、如何に問題解決型の学習過程を進めていくか等、新しい時代の学習モデルについて研究を深め、その成果を公開授業や研究紀要等で大阪市学校園と共有を図っていく。その研究・実践に取り組む中で、本校教員の授業力向上を更に図り、児童の学力向上も図ってまいり所存である。</p> <p>以上により、本研究は、大阪市の教育活動の推進に大きく寄与できるものと考え、是非選定をお願いしたい。</p> <p>2. 継続研究（2年目） ※継続研究3年目の場合は、2年目の記載をコピーして貼付する</p> <p>本校においては、ここ数年継続して「ICTを活用した『主体的・対話的で深い学び』の追求」をテーマに「がんばる先生支援」に選定され、研究活動に取り組んできた。これまではコロナ禍の中、予測不能な事態への対応並びに1人1台体制・教育情報システムの導入など新しいシステムへの対応など、変化に対応する学校づくりが求められてきた。その中で「ピンチをチャンスにできる取り組み」ととらえ、本研究実践に教職員一同真摯に取り組んできた。取り組みを進める中で、児童の学力・教職員の授業力も着実に向上してきている。</p> <p>コロナ禍についてはうー一定の落ち着きを見せ、今後改めて、society5.0を意識したICTを活用した学習に腰を据えて取り組み、児童の学力・教職員の授業力もさらに向上させていきたいと考える。</p> <p>本年度は、これまでの研究成果をさらに発展させ、1人1台端末体制のもと、「個別最適な学び」と「協動的な学び」の一体化を図りながら、如何に問題解決型の学習過程を進めていくか等、新しい時代の学習モデルについて研究を深め、その成果を公開授業や研究紀要等で大阪市学校園と共有を図っていく。その研</p> <p>3. 継続研究（3年目）</p>						